



「コロナで失われた」とはとてつもなく大きい。世界のすべてで、日

常性が失われたのは悲しいことであった。しかし、得たものもある。家ごもりが続くことで、自分の人生を見直す機会になったという人も多い。そしてまた、家の中にいて楽しめること、癒されることを追求するようになった。

静かであったりとした口調ではあるが、はっきりとした自線その人はそう語ったのだ。「エムズシステム」といつペンチャーカンパニーを興して20年、いまやミラクルともいっべき一本スピーカーでこの世界を変えていくという哲学を貫こうとしている人物である。

その人の名は、三浦光仁という。三浦氏は、エムズシステムの代表 三浦光仁氏（右側にあるのが驚異の一本スピーカー）

岩手県金石出身。父親は大手鉄鋼会社の川崎製鉄に勤める人であった。千葉県下で育ち、県立船橋高校を出て、上智大学文学部でフランス文学を学ぶ。卒論のテーマはなんと、ポスト印象派の画家である「ゴッゲン」であった。大手出版社の集英社でアルバイトをし

勢丹に在籍したが、アマゾンの森を守るNGOに出会い、環境保護活動に取り組み。2000年には経営コンサルタントに乗り出し、エムズシステムを設立し代表取締役になる。03年には業態を総合音響メーカーに変えて、画期的ともいわれる一本スピーカーの販売に

に出っていくのではなく、自然界の音色と同じくカラダを包み込むように聞こえることであり、あたかも目の前で演奏しているかのような臨場感を楽しんで欲しい(三浦氏)。筆者は実際に聞かせていただいたが、まぎもってサプライズであった。一番の売れ筋であるMS

バスがあつて、どこにドラムがあるかが明確にわかる。「これはすごい！」と叫んで、「これって超高いんですよ」と聞いたところ、12万9000円という価格に驚かされた。そして、アンパ内蔵型スピーカーとして投入されたSLAシリーズは、9万8000円と廉価であり、寝室、書斎、小規模会議室などに最適

た。「導入事例は数多い。三越伊勢丹、高島屋ウォッチメゾン館、東急プラザなどおもてなしを大切にすする数々の店舗施設や高級ホテル、老舗旅館などに導入されている。多くのレストラン、カフェ、バーにも設置が進んでいる。東京吉兆においては全館全室に導入されている。そのほか、エステサロン、ヘアサロン、病院、介護施設、スポーツクラブなどでの採用も増えている」(三浦氏)。

きりと視野に入ってきたという。今後のさらなる商品開発の方向性は何かと聞いたところ、これまた驚きの答えが返ってきた。「私たちのスピーカーを使えば、家庭における映画館は・ライブ鑑賞・自然体験などが簡単に実現できる。これを追求していきたい。最近では昔の伊勢丹の仲間たちからこんな話も出た。新宿伊勢丹には111の売り場があるが、これをすべて素晴らしい音と見事な照明を駆使した劇場にしてしまつのは楽しい。111の売り場には111のストーリーがあることを消費者の人にわかってもいい、そこで面白い物をする喜びを感じてもらえたら素晴らしい。これは、果たせない夢かもしれないが、実現を待つ声が多い」(三浦氏)。

111の売り場に音の劇場 一本スピーカーのミラクルを追う

で、フランスにわたる。

ここで出会ったものは豊かな芸術の世界であった。

25歳で帰国して、大手百貨店の伊勢丹に入社する。メンズファッションの分野をひたすら極めていく。20年間にわたり伊

踏み切るのだ。

「私たちの提供する一本スピーカーはこれまでの常識を破った製品だ。

左右の2本のスピーカーで立体的なステレオサウンドを組み立てるのが常道であった。しかし、私たちのスピーカーは、たった一本で、居心地の良い音を再現できる。最大のポイントは音が一方向

1001M(メートル)というスピーカーはわずか幅40cm、直径16cmというスケールであり、天然素材の木と紙の外装になっている。あちこちに移動して聞いてみたが、どの場所においても、まさに心地よい音色が空間全体に拡がっていく。そしてまた、どこにピアノがあつて、どこにコントラ

なのである。さらに加えて発表されたカゲエシリーズは、5万8000円という超廉価版であり、モバイルケースや電池ボックスも付属しており、外出先でも手軽に極上の音を楽しめる。もっと驚かされたのは、スマホやPCにつないでも、どんな素晴らしい音が出るというところであつ

この間のコロナ禍においては、テレワークが進み、家庭で過ごす時間が多くなった。これを反映して家ごもりの生活を快適にするために、エムズシステムのスピーカーへの引き合いが激増している。自然な音に包まれる心地よさが新しい生活の始まりになってきた。

これまでの累計出荷台数は4万台であるが、家庭における需要が伸びており、10万台の普及ははっ

り、10万台の普及ははっ

りあ代表 泉谷渉